

(メッセ海外通信 VOL. 38 2016 年 7→9 月号掲載記事)

～40年間続く関釜スポーツ交流 関釜親善ソフトテニス大会～

下関市総合政策部国際課
(釜山広域市派遣職員)
阿部 さおり

アンニョンハセヨ！

今年は下関市と釜山広域市が姉妹締結をして40周年を迎える記念の年です。下関市と釜山広域市がどのような交流を行っているかをこれから3回にわたり皆さんにご紹介します。

下関市と釜山広域市の間で様々なスポーツ交流が行われているのをご存知でしょうか？映画「チルソクの夏」の舞台にもなった陸上競技をはじめ、バレーボール、ヨット、剣道、ハンドボール等さまざまな種目で交流が盛んに行われています。

今回ご紹介するのは、姉妹締結の年から交流が始まり、今年で40回目を迎えた関釜親善ソフトテニス大会です。昭和51（1976）年10月11日に下関市と釜山広域市の姉妹締結が行われたのですが、それにさきがけて同年8月1日に第1回大会が釜山広域市で開催されました。この大会は、姉妹都市間の市民交流を目的として始まり、両都市で毎年相互に開催し選手同士の友好交流を図っています。

大会は団体戦と個人戦で構成され、遠征側は約50名、受け入れ側は約100名、総勢約150名で開催されています。また、選手団は中学生、高校生、一般、壮年男女の幅広い年齢層で構成されています。とくに下関側の高校生は、優秀な選手を選抜して派遣されています。

今年の親善大会は、8月7日（日）に釜山広域市で開催され、下関市と釜山広域市の選手総勢150名が炎天下の中、熱戦を繰り広げました。開会式では、今年で40周年を迎えるこの大会に対する感謝状が下関市長から釜山広域市ソ

フトテニス協会へ贈呈され、釜山広域市ソフトテニス協会からは40年間毎年参加した選手に対し功労賞が贈呈されました。

この40年の間で、教科書問題、鳥インフルエンザといった様々な社会問題や、台風などの自然・環境問題といった不安要素が多くあり、開催が危ぶまれるときもありました。しかし、ここまで長く交流を続けることができた最大の理由は、やはり両市民、両団体役員の方々の長年の交流努力による深い信頼関係ではないでしょうか。また、派遣側は旅費等の負担、受け入れ側は移動手段、大会運営、大会後の交流会経費の負担というように役割分担を明確にして経費の節減に努めていること、また両市間に釜山フェリーが毎日就航していることも交流継続の理由と考えられます。

今回は、10月18日（火）に釜山広域市で開催される姉妹締結40周年記念式典と、下関市と釜山広域市の姉妹締結の歴史についてお伝えします。



第1回 釜山市 下関市 交歓親善軟式庭球大会



日時：1976. 8. 1（日）午前9時 入場式
場所：釜山市 西區 下瑞洞 庭球場 Tel. 0682
主催：釜山市軟式庭球聯盟
後援：釜山市体育會